

様式13

会派視察研修計画書

令和 5年 6月 27日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党

代表者名

大竹 敦子

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	大竹 敦子 加藤 厚雄	
日 時	令和 5年 8月 2日（水）～令和 5年 8月 4日（金）	
視 察 先	1日目：山梨県山梨市 2日目：千葉県市川市 3日目：東京都大田区	
研 修 内 容	1日目：山梨市立産婦人科医院設置事業について 2日目：まごころゾーンの取り組みについて 3日目：大田区南六郷創業支援施設について	
日 程	1日目：15:00～16:30 山梨市役所 2日目：13:30～15:00 市川市役所 3日目：10:00～11:30 大田区南六郷創業支援施設（六郷BASE）	
交 通 手 段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関利用 乗降車駅名（ ）	<input type="checkbox"/> 自家用車利用 _____ 台 所有者名（ ）

（議会事務局記入）

旅 費 の 額	(内 訳)
円	

会派視察研修報告書

令和 5年 9月27日

碧南市議会議長 様

会派名 公明党
 代表者名 大竹敦子

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2人 分の視察研修報告書を添付いたします。

参加議員	加藤厚雄、大竹敦子
日時	令和 5年 8月 2日（水）～令和 5年 8月 4日（金）
視察先	山梨県山梨市、千葉県市川市、東京都大田区
研修内容	山梨県山梨市 「山梨市立産婦人科医院設置事業について」 千葉県市川市 「まごころゾーンの取り組みについて」 東京都大田区 「大田区南六郷創業支援施設について」
視察先面会者 又は講師名等	山梨市：土屋裕紀山梨市議会議長、健康増進課 矢崎貴恵課長 山梨市立産婦人科医院 中村雄二院長 市川市：稲葉健二市川市議会議長、 道路交通部道路交通課 戸枝秀行課長 街づくり部建築指導課 野田晃昌課長 大田区：大田区議会事務局庶務調査 山田健太担当 TSUCREAインキュベーショングループ 太田尚緒美マネージャー
備考	

※ 相手方から収受した資料の写しを添付してください。

会派視察研修成果報告書

令和 5年 9月 27日

議員氏名 大竹 敦子

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和 5年 8月 2日（水）～令和 5年 8月 4日（金）
- 2 視察先 山梨県山梨市、千葉県市川市、東京都大田区
- 3 視察の種類 先進地視察
- 4 視察の成果等

山梨市 「山梨市立産婦人科医院について」

山梨市は、市の80%を森林が占める甲府盆地にあり、高齢化も進み、70代80代が中心の働き手により桃やぶどうといった果樹農業が盛んな市である。市の中心拠点病院は、病床数30床の山梨市立牧丘病院がある。在宅医療にも力を入れ、年間5000件の往診に対応している。

一方、産科においては、昨今、過重な労働条件や訴訟等の増加により、産科の医師が年々減少し、山梨県内においても、分娩施設が減少し、市内の産科医院も閉鎖という状況が起きていた。

また、出産を希望する女性にとっても、分娩や産後について、入院期間の短縮や出産後、家族等による支援を受けられないケースも増えるなど、とても厳しい状況に、少子高齢化の歯止めが効かない状況であった。

そのような中で、市内唯一となった現在の山梨市立産婦人科医院の前身である「中村産婦人科医院」が駅前開発により、移転することとなった。この際、行政の責任として安心して子どもを産み、育てられる環境を整える必要性から、病院の建物は市が建設し、運営は指定管理者制度を導入し、産科医療に精通している民間である中村医師に運営を任せるといった公設民営の形を取り、「山梨市立産婦人科医院」を整備し、平成29年6月1日に開院した。

昨今の気産婦人科を取り巻くと大変厳しい状況の中、市内に産婦人科医院があるという事は、これから子どもを産みたいという女性、妊婦にとって大きな安心感につながっている。開院後の成果は、平成29年度330件であった分娩数は、令和4年度には443件に増加した。山梨市内においても91件から118件と27件増加している。

指定管理期間は20年としている。前年度の利益余剰金の18%を市へ納付している。

山梨市立産婦人科医院では、切れ目ない子育て支援を目指して、県内で唯一の宿泊型産後ケア事業も実施し、市民は、市が32,150円を補助し、本人負担2,500円で利用できる。その他にも、デザイナーズ型訪問型の産後ケアも実施している。訪問型事業では、助産師が担当を決めて、妊娠中1回、産後2回の訪問看護を行い、妊娠から出産子育てまで切れ目の無い支援に力を入れている。

院内の多目的室では、生後5カ月までの母親が赤ちゃんを連れて交流できる場を毎週火・木曜日に無料でリラックススペース「ふわふわ」を開設している。

人材育成のため、1,600万円の経費で「助産師育成講座」を開き、5年間、15人から16人の助産師の養成をしている。

提言

中村院長のお話では、指定管理とは言え、人口が減少し、分娩数の減少などにより産婦人科を継続して経営していくことは簡単ではない。しかし、誰かがやらなければならないとの思いと山梨市が安心して子どもを産み育てられる町にしていかなければならないという本気を感じて決意をしたとのことであった。

少子高齢化に歯止めをかけるために何が必要か、山梨市の場合、まず、分娩施設の整備であり、医師の確保であったと思う。その中で、中村院長自身も医師、助産師の確保に力を入れてきたことに頭が下がる。人材確保にまだまだ予算が足りない。予算をもっと付けるべきであると力説されていた。開院以来、分娩数を増やし、課題の多い産科の指定管理の事業を成功に導いている。それだけのことをしてきているからこそ言える言葉だと感じた。碧南市においても、子育てしやすい街にするために、何が必要かについて真剣に取り組み、結果の出せる事業に取り組んでいただきたい。

市川市 「まごころゾーンの取り組みについて」

背景と経緯

市川市は、不交付団体として、22億に上る順調なふるさと納税を追い風に、給食費無料化（18億）、第2子保育料無償化（6億）にと子育てにも力を入れ、千葉県第2位という高い人口密度になっている。

市川市は、東京都に隣接した地域として、道路事情は整備が追いつかないまま宅地化が進み、狭あい道路が多く存在している。市川市内を南北に走る国道14号線の渋滞を避け、通勤の車が、市内の狭あい道路へと集中し、通り抜けるという現状がある。

平成21年度、大久保新市長は、こうした現状を打開するため、「狭あい道路の解決策を進める」と掲げた公約に沿って「まごころ道路整備事業」「狭あい道路対策事業」が事業化された。車や人がすれ違ふことが困難な道路で安全に通行できるようにするには、道路を拡幅が必要になる。そのための隣地の用地買収には多額の費用がかかる。そこで、道路の一部に空き地等があれば、そこを「まごころゾーン」として退避スペースを確保し、その道路を「まごころ道路」として整備した。

事業概要

「まごころ道路」

選定基準としては、市道であり、交通規制がされていない道路で、1時間当たりの通行量が30台以上かつ車の通行量と人の通行量が100以上あることが整備基準としている。

退避スペースとなる「まごころゾーン」としては、幅員を5.5mから6m、延長は10mから12mとし、「まごころゾーン」内を、橙色の滑り止め舗装を施し、ゾーン内に歩道区分の白線を引く。道路の前後に案内板を設置し、道路の起点終点に「まごころゾーン」のネーミングシート、視覚の注意を促すイメージハンプを設置する。

整備実績は、平成22年度から令和4年度までに、29か所を整備した。事業費は、1ヶ所当たり600万円で、総事業費は約1億7500万円かかっている。

今後の課題としては、整備の要望が減少しているとともに、要望のあった箇所について選定基準を満たしていないことから整備に至らないケースがある。

「狭あい道路対策事業」

この事業は、道路部分を市に寄付したいという意向のある土地所有者に測量・整備等を支援することで、市への寄付を促し、狭あい道路対策を促進する。または、セットバック部分を市が整備・管理することによって、統一感のある路面として整備でき、私有地として利用されることを防ぐ目的で進める。

事前に土地の現地調査を、チェックリストによって確認し、市が測量・分筆するか、所有者個人が、測量・分筆則分泌し、その後、補助金（上限24万円）を申請するかを決めて狭あい道路の整備を進める。実績として、平成23年度から令和4年度までに111件、総延長1.888kmとなっている。

今後の課題としては、「まごころ道路」と同様に、要望件数の減少、基準に満たないケースがあるということである。今後も更に周知を進め、事業を行っていくということである。

提言

市川市において、狭あい道路の整備が進んでいる原点は、やはり、市長の決意が固く、進められたからではないかと思う。そういう背景の中で、「まごころ道路」、「狭あい道路対策事業」が事業・実施されたのは、市内にある多くの狭あい道路を減らし、車・人が如何に安心・安全に通行できるまちづくりを進めていくかという点で考えを凝らし、特に、進まない狭あい道路の改善に、「まごころゾーン」の設置という退避スペースの確保は、あまり他に類を見ないことから改善していこうという施策として、担当者の知恵と工夫に脱帽するものである。

狭あい道路の改善には、住民の理解と協力が欠かせないが、「まごころ道路」の案内板やネーミングシートの設置は、市民への配慮を感じる。本市においても、多く残る狭あい道路の解消のため、少しの余剰地があれば、「まごころゾーン」を整備できるので、「まごころゾーン」を整備することで安心して通行できる道路に整備を進めていただきたいと要望したい。

大田区 「大田区南六郷創業支援施設について」

背景と経緯

大田区は、国内外のハブ空港として国際的ビジネスの起点となる羽田空港を擁し、中小企業が集積するものづくりの盛んな地域であり、現在、4,200社の製造業事業所が立地している。企業の特徴として、基盤技術に特化した企業が多く、それぞれの企業が連携しあい、高精度な複合的な加工技術と短納期に対応できる迅速性を実現している。

そのような中で、新たな、技術開発、製品開発に取り組み、新たな創業者を生み出していける新規創業を応援していくための施設として「六郷BASE」（大田区南六郷創業支援施設）を開設した。

建物は、羽田小学校の廃校を活用した「ピップあさひ」の老朽化に伴う移転の際、区の土木施設を図書館として利用していた建物を、東京都の補助金を活用し、約42,000万円で改修、イノベーションし、現在の「六郷BASE」として開設した。

事業概要

「六郷BASE」の管理運営は、指定管理者制度で、競争入札により、株式会社「ツクリエ」が運営している。当初の期間は3年間であったが、現在は期間が5年間に延長されている。指定管理料は1,500万円で運営している。スタッフとしては、6名のインキュベーションマネージャーが相談支援し、アドバイザーも兼務している。

施設概要としては、3階建てで、1階は、だれでも利用できるオープンスペース、イベントも開催できるセミナールーム、3Dプリンター、レーザーカッター等が設置された試作室、事務所などがある。2階は、席を固定しないコワーキングスペース、4つの会議室、集中して作業できる半個室型の8つのシェアードオフィス、カフェスペースなどがある。3階は、中央にフリースペース、カフェスペースがあり、2つの会議室、個室型のワークスペースが12部屋ある。部屋は、1時間500円から1か月11万円までそれぞれ用途、広さ、時間、利用期間等で個別の料金が設定されている。現在は、60席、60人の会員のうち30%ほどが利用している。

利用者については、大田区以外からも募集し、大田区に申請を出し、認可が下りると利用できる。利用者には、インキュベーションマネージャーが1ヶ月ごとに進捗状況等についての面談を行っている。独立に関する面については、専門家へつなぐなどしている。独立の際は、できるだけ大田区内の不動産を紹介、企業、事業者との連携を図っている。

その他にも公立の高中小学校に出向き、「起業家教育事業」を行い、子ども達の将来の起業家への展望などを広げている。

今後の課題

セミナーなどを開催し、大田区の企業立地条件の良さなど広く市民にアピールしていく。

提言

創業支援施設支援を手厚く実施しており、ひいては、区内の活性化につながる施策で

あると感じた。特に若い方が、自分の個性や独創性を生かして企業を考える際には、なかなか個人では進められない視点や起業するための面倒な手続きなど途中であきらめてしまうほどの困難もあると思うが、そのような時、アドバイザーの方の支援を受けて多少の軌道修正があるかもしれないが、夢を実現するために、前へ進むために、支援してもらえる施設があることは、大変すばらしい取り組みであると感じた。

碧南市においても、ものづくりのまちとして、若者支援、高齢者の働く意欲を盛り上げられるような取り組みを企画していただきたいと要望する。

視察研修成果報告書

令和 6年 1月 18日

議員氏名 加藤厚雄

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期 間 令和5年8月2日（水） ～ 令和5年8月4日（金）
- 2 視 察 先 山梨県山梨市、千葉県市川市、東京都大田区
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

山梨県山梨市（研修項目 山梨市立産婦人科医院設置事業）

産科の医師は過重な労働条件や訴訟等の増加から年々減少している。分娩・産後を取り巻く状況について、従前は1週間程度の入院や実母や義母地域の支援が十分に期待できたが、昨今は入院期間の短縮や支援がほとんど得られない母親が増えており、そのことが産後うつ、児童虐待の要因になっている。少子化が進む中、行政の責任として安心して子供を産み育てる環境を整備することは重要である。山梨市では施設は市が用意し、運営は産科医療の運営に精通している民間に指定管理者制度を導入して行う、公設民営の施設である。前年度の利益余剰金の18%を市へ納付している。現在黒字決算である。

千葉県市川市（研修項目 まごころゾーンの取り組み）

狭あい道路を歩行者や車が、安全に通行できるような道路に整備するまでには、長い時間と多くの費用が必要となります。そこで、車両等がすれ違うためのスペースとして「まごころゾーン」という待機スペースを部分的に設けることにより、地域にとって安全な道路環境を確保することを目的に「まごころ道路整備事業」に取り組んでいる。地権者の同意を得られない場合も多くあり整備が遅れることが課題となっている。

東京都大田区（研修項目 大田区南六郷創業支援施設）

「大田区で企業立地してみませんか？」六郷BASE（大田区南六郷創業支援施設）は新規創業者や新分野進出を目指す中小企業を対象としたインキュベーション施設です。インキュベーションマネージャーによるきめ細やかな創業支援のほか各種イベントを行い、開業率の向上、経済の発展、創業の機運醸成を促進している。創業支援施設があることが素晴らしい。利用料金も大変安い。